

## 2月9日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①アウジーイウカが陥落の瀬戸際に ウクライナ東部要衝、ロシア軍が突破口 (Forbes, 2024年2月8日)

※安齋注:Forbes「によれば、ウクライナが負けるのはアメリカ共和党のせいだ」って。

2月4日、ロシア軍部隊は曇り空の下をすばやく進撃し、ウクライナ東部アウジーイウカ市内に侵入した。

ロシア軍の2個野戦軍が、すでにロシアの支配下にあるドネツク市のすぐ北西に位置し、ウクライナ軍の要衝であるアウジーイウカの攻略に向けた攻撃を開始してから4カ月。兵力約4万、車両数千両を投入し、おびただしい血を流してきた作戦は、最終局面を迎えつつある可能性がある。

「市の状況は危機的になっている」。ウクライナのジャーナリスト、アンドリー・ツァプリエンコはそう報告している。

作戦が実際に最終局面にあり、ロシアが勝利することになれば、その責任が主に誰にあるのかは明らかだ。米議会のロシア寄りの共和党議員たちである。彼らは昨秋以来、米国によるウクライナへの援助を妨害し、その結果、ウクライナ軍がロシア軍の火力に対抗するために必要としている弾薬を枯渇させた。

ウクライナの戦場記者ユーリー・ブトゥソウは4日「アウジーイウカは新たな予備と交代部隊を緊急に必要としている」と伝えている。「弾薬も必要だ。補給も極度に少なく、敵(ロシア側)が大きく優位な状態にある」

アウジーイウカ守備隊は、ロシア軍と親ロシア派勢力がウクライナ東部に侵攻した2014年以来、10年にわたって持ちこたえてきた。ロシアがウクライナでの戦争を拡大した2022年2月以来、2年近くはウクライナ軍の第110独立機械化旅団が市の防衛の主力を担ってきた。

アウジーイウカ占領がロシアの主要な目標の1つだということが明らかになったあと、ウクライナ軍東部司令部はこの方面の防衛の増強をしなかったわけではない。増強はしていた。

アウジーイウカの北面には、近接する集落ステポベを防衛するため、米国製M2ブラッドレー歩兵戦闘車などを運用する精鋭の第47独立機械化旅団が配置された。南面には第53独立機械化旅団が増援に到着した。

ただ、市の中心部を守るのは依然として第110旅団と国家警備隊や特殊部隊の一部だけとなっている。

2000人規模の第110旅団は休息のための交代を一度もせず、連日戦い続けてきた。歩兵は塹壕に陣取り、攻めたり守ったりする。ドローン(無人機)の操縦士は爆発物を積んだドローンなどを飛ばしときには廃墟に駆け込んでアンテナを設ける。砲手はグレネードランチャー(擲弾発射器)や対戦車ミサイルを目標に向けて撃ち込む。

第110旅団、あるいは増援の旅団もそうやって、この4カ月、攻撃してくるロシア軍の縦隊をつぶしてきた。昨年12月までにロシア側は死者・重傷者を1万3000人出し、装甲車両を数百両失った。2カ月後の現在、ロシア軍の兵力の損耗は2倍に膨らんでいる可能性がある。

だが、ロシアは新たな部隊を次から次に「肉挽き機」のような戦場に投入し続けた。人員にも装備にも多大な犠牲を出しながら、ロシア軍はまずアウジーイウカの側面に、次に市内へとじわじわ前進してきた。

ロシア兵を市北部の陣地から排除できなければ、守備隊は補給路を断たれるおそれがある  
4 日、現地に雲が垂れ込め、ウクライナ側の多数のドローンが飛行停止を余儀なくされ、ほかのドローンなども視界が曇ると、ロシア軍部隊は前進を図った。ツァプリエンコによれば、ロシア軍部隊は市の北端に隣接する採石場の脇を突っ切り「ウクライナ側の戦闘陣形を迂回して建物内に陣取った」という。

ブトゥソウは、不意を突かれた第 110 旅団の部隊が至急対応した様子を伝えている。伝えられる証言によれば、年配の整備員を含めて全員が武器を手に取り、この陣地に向かうように命じられた。彼らは出ていき「ほとんどが戦闘で死亡した」という。

ブトゥソウはドローンの映像で、ロシア軍の突撃グループが家屋を攻撃するところも見たという。「私たちの兵士 2 人は最後まで戦った。家屋は燃え上がり、誰も投降しなかった」

ロシア軍部隊がアウジーウカ北部に新たに築いた陣地に張り付くことができれば、ロシア側は西から市内に伸びる守備隊の補給線を脅かすことができる。ツァプリエンコは、4 日時点で、ロシア軍部隊のいる場所は主要道路から数百メートルしか離れていないと指摘している。ロシア兵が携行している武器でトラックを十分攻撃できる距離だ。

アウジーウカは陥落するかもしれない。9 カ月前のドネツク州バフムートに続いて、ロシアがウクライナで占領した新たな都市になるかもしれない。そうなった場合、責任の大半はウクライナから弾薬を奪った共和党議員たちにある。

彼らは自分たちの頑なな態度によって、ウクライナの兵士らが味方の火力支援を得られず、冷たい塹壕の中で死ぬことになるのは知らなかったと弁解することはできない。共和党がウクライナへの支援を妨害し出してから約 6 週間後の昨年 12 月時点で、アウジーウカ方面のウクライナ軍部隊は弾薬庫が払底していることを訴えていたからだ。

同月 17 日、ロシア軍の縦隊は霧に紛れてアウジーウカを南側から攻撃した。ウクライナ軍のドローン操縦士たちはのちにこの部隊を発見したが、味方には攻撃する手段がなかった。「私たちにはただだんに弾薬がない」と操縦士の 1 人はこぼしている。

この縦隊は結局、地雷を踏んで引き返した。ウクライナ軍のドローン操縦士たちは、ロシア兵がウクライナ側の攻撃を受けず自陣に歩いて戻るのをみすみす許した。「ロシア兵が罰を受けずに歩き去るのを見るのは虫酸が走る」と同じ操縦士は吐き捨てている。

これらのロシア兵たちは生き延び、その後再度、いや何度もアウジーウカを攻撃できたのだろう。そして、天候とウクライナ軍の火力の低下のおかげで、ついに市内への侵入を果たした。

ウクライナ軍によるアウジーウカの防衛では、常に小型ドローンが鍵を握ってきた。やって来るロシア軍部隊を偵察ドローンが発見する。爆発物を積んだ FPV(1 人称視点)ドローンがそれを攻撃する。最後は M2 や戦車が出撃してとどめを刺す。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7f9ff0a5f7cc8ea8e0278ef7a6871f5a6cf68da2?page=2>

## ②ウクライナ支援でバイデンが「奥の手」 ギリシャなどから三角スキームで武器送る (Forbes, 2024 年 2 月 1 日)

「三角取引」。この言葉をよく覚えておいてほしい。米国のジョー・バイデン大統領はこの方式によってウクライナに武器を届け始めている。

最初はエクアドル。そして今、ギリシャとそれを進めている。

三角取引とは要するに、突き出し方式で第三国に武器を融通するスキームだ。ある国が相手国に代金を支払うか武器を供与し、それによって相手国から第三国に武器を供与できるようにする。

ウクライナへの武器支援で、この方式のパイオニアはドイツである。ドイツ語で「Ringtausch」(「循環取引」といった意味)と呼ばれるこのスキームを通じて、ドイツはウクライナに武器を送り出してきた。主だったものを挙げれば次のようなものがある。

- ・チェコ:ドイツはチェコにドイツ製レオパルト 2 戦車(14 両)と工兵車両(1 両)を提供し、チェコはウクライナに旧ソ連製 T-72 戦車(数十両の可能性)を譲渡
- ・ギリシャ:ドイツはギリシャにドイツ製マルダー歩兵戦闘車(40 両)を提供し、ギリシャはウクライナに旧ソ連製 BMP-1 歩兵戦闘車(40 両)を譲渡
- ・スロバキア:ドイツはスロバキアにドイツ製レオパルト 2A4 戦車(15 両)を提供し、スロバキアはウクライナに BMP-1(40 両)を譲渡
- ・スロベニア:ドイツはスロベニアに軍用大型トラック(45 台)を提供し、スロベニアはウクライナにスロベニア製 M-55S 戦車(28 両)を譲渡

古い武器の在庫が膨らんでいる米国は、いずれドイツを抜いて三角取引の最大のブローカーになる可能性がある。それには十分すぎるほどの理由がある。米議会でこの 4 カ月、極端派のマイク・ジョンソン下院議長率いるロシア寄りの一部共和党議員が、ウクライナの戦争努力を支援する米政府の 610 億ドル(約 8 兆 9000 億円)の新たな支援予算を妨害し続けているからだ。

バイデンと部下のアントニー・ブリンケン国務長官は知恵を絞った。そして、おそらくドイツを手本に、議会の制約を受けない、大統領のもつ広範な軍事援助に関する権限を行使して、ウクライナ以外の国に武器を供与し、その国からウクライナに武器を譲渡してもらう取り組みに乗り出した。

1 月上旬、エクアドルのダニエル・ノボア大統領は、米国から 2 億ドル(約 290 億円)相当の新しい武器を受け取る代わりに「スクラップ」兵器を米国に譲渡するとラジオ局のインタビューで明らかにした。

エクアドルからウクライナに向けて運び出されたものとは？

そして、この「スクラップ」は米国からウクライナに譲渡される。一部は 1 月下旬、アントノフ An-124 大型輸送機でエクアドルから国外に運ばれたようだ。

エクアドルがウクライナに間接的に供与した武器が何だったのか、推測することはできる。9K33 オサー地对空ミサイルシステムだ。レーダーと、射程およそ 10km のミサイルの 4 連装発射機を組み合わせた旧ソ連製防空車両で、エクアドルは何年か前、当のウクライナから 10 基取得していた。

オサーは世界最高峰の防空兵器というわけではないものの、シンプルで信頼性が高い。ウクライナ軍の第 1129 対空ミサイル連隊にも、近代的な英国製ストーマー装甲車と並んでオサーが配備されている。

第 1129 連隊でオサーとストーマーは互いに補完する関係にあるという。同連隊の兵士は「オサーはシンプルで、目標をより早く見つけることができる」反面、アクティブレーダーを使うため「探知されるのもより早い」と語っている。つまり、応射にさらされる危険があるということだ。

ウクライナは 2022 年 2 月にロシアが戦争を拡大した時点で、オサーを 100 基程度保有していた可能性があるが、OSINT(オープンソース・インテリジェンス)グループの Oryx(オリックス)によると、うち少なくとも 16 基をロシア軍による攻撃で失っている。エクアドルからの譲渡に先立って、ウクライナはポーランドから余剰分のオサーを入手している。

エクアドルからの返還分によって、ウクライナ軍のオサーは戦争拡大前の数に回復するかもしれない

い。とはいえ、ミサイルの発射機と合わせてミサイルがセットで供与されるのだとしたら、そちらのほうが発射機本体以上に重要だろう。ウクライナ軍はロシア軍のドローン(無人機)や巡航ミサイル、ヘリコプター、その他の軍用機を迎撃するために、短距離ミサイルを何千発と費やしている。

エクアドルに続いて、ホワイトハウスはより規模の大きい三角取引をギリシャと始めた。

ギリシャのカティメリニ紙やその他のメディアによれば、バイデン政権はギリシャに、マリンプロテクター級哨戒艇 3 隻や C-130H 輸送機 2 機、P-3 哨戒機用のアリソン T56 ターボプロップエンジン 10 基、M2 ブラッドレー歩兵戦闘車 60 両、複数の輸送用トラックを供与した。

ギリシャから譲渡される装備には S-300 地对空ミサイルが含まれる可能性も

米政府はこれらと引き換えに、ギリシャがウクライナにさらに多くの武器を渡すことを求めている。「わが国は、ギリシャがウクライナに譲渡または売却できる防衛装備に引き続き関心をもっている」とブリンケンは表明している。ギリシャ政府はすでに、ウクライナに譲渡する古い武器を手当てしたとも伝えられる。

エクアドルの場合と同様に、ギリシャから三角取引でウクライナに送られる武器にも防空装備が含まれる可能性がある。旧ソ連で開発された S-300 地对空ミサイルシステムや 9K330 トール短距離地对空ミサイル、オサー、米国製ホーク中距離地对空ミサイルシステムだ。

三角スキームを通じた米国からの間接的な対ウクライナ支援が必要なのは、昨年 10 月以降、米議会共和党が、ウクライナに対する直接の追加軍事援助はおそらく決して承認しないという姿勢を明確にしたからだ。

共和党議員は、ドナルド・トランプ前大統領がウクライナに向ける個人的な憎悪と、権威主義のロシアに寄せるやはり個人的な好感に歩調を合わせている。

これらロシア寄りの議員たちは法案は妨害できても、米国がパートナー国向けの武器に資金を融通したり(編集注: 対外軍事融資 = FMF = と呼ばれるプログラムのこと)、米国の軍事ニーズを超えて余剰となったと大統領に認定された武器を譲渡したりできる、バイデンの大統領としての法的権限の行使は阻めない。

後者の余剰防衛装備品(EDA)に関する権限はとくに強力である。法律では EDA の枠組みで移転できる武器の上限額は年間 5 億ドル(約 730 億円)に制限されているが、大統領が余剰武器に割り当てる金銭的な価値に関する規定はない。その価値はゼロ、つまり無償供与になる場合もあるのだ。受け取る側の国にとって主な問題は、輸送費については米国が負担することが認められていない点だ。

ウクライナ支援法案のメリットは、米国が製造できる、もしくは他国から購入できるほぼすべての武器を、ウクライナに供与できる基金を創設できる点ところにある。

バイデンが既存の融資権限とりわけ EDA の権限に頼る場合、選択肢は少なくなる。今のところバイデンは、ウクライナ軍が使い慣れている旧ソ連式の武器をもっと入手できるように、三角取引向けに資金を融通したり、余剰武器を譲渡したりすることに最も熱心に取り組んでいる。

とはいえ、共和党が頑なな態度を崩さない限り、バイデンはさらに創意を発揮するだろう。ウクライナ、もしくは別のどこかの国が輸送費を負担すれば、バイデンは EDA をウクライナに直接譲渡することすらできるのだ。

David Axe

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7e3bc59f27a08b2349a9e9b3bed270aad6e06276?page=3>



### ③米上院、緊急予算案を否決 ウクライナ支援再開できず(2024年2月8日)

【ワシントン共同】米上院は 7 日、バイデン民主党政権が求める不法移民対策とウクライナ支援を含む緊急予算案を否決した。共和党のトランプ前大統領が反対し、承認阻止に向けて同党議員に圧力をかけていた。ロシアの侵攻を受けるウクライナにとって命綱の軍事支援の再開は暗礁に乗り上げている。

不法移民対策は 11 月の大統領選の主要争点で、民主、共和両党で駆け引きが続いている。

米メディアによると、バイデン大統領は 7 日、ニューヨークでの選挙資金集めの非公開会合で、トランプ氏が予算案に反対するよう共和党議員を脅していたと批判した。

緊急予算案は約 1180 億ドル(約 17 兆 4700 億円)規模。



7日、記者団の取材に応じる、米民主党の上院トップのシューマー院内総務(ゲッティ=共同)  
(KYODONEWS)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6674672d97676b5f32c98ac39573c8e2e6bdf0f6/images/000>

### ④【独自】原口一博議員「日本は日本のために行動すべき。それはロシアと敵対することではない」(2024年2月6日)

立憲民主党の原口一博衆議院議員は、スプートニクのインタビューに応じ、日本のウクライナ支援における問題点や懸念事項について語った。

原口氏は、ロシアとウクライナの問題を考えるにあたり、歴史の真実を知り、安全保障の観点をふまえることが重要と指摘。また、隣国ロシアとの長い友好の歴史を反故にしてはならないと話した。

<https://twitter.com/i/status/1754803085262647303>



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1755065695463968780?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1755065695463968780?s=09)

## ⑤ CNN がタッカー・カールソンを嘘つき呼ばわりしてますよ(2024年2月7日)

※投稿者コメント:「ロシアに行っていない、プーチン大統領と話もしていない」と、良くこう言う嘘を平気で言えるね。

笑ってしまう。宣伝してもらえたタッカー・カールソンさん更に有名になるのに🤔🤔🤔

<https://twitter.com/i/status/1755207385499799907>



<https://twitter.com/w2skwn3/status/1755207385499799907>

## ⑥ロシア大統領選 “反プーチン”ナデジディン氏の出馬認めず「予想通りの決定」10万人超の署名提出も無効に…不服申し立てへ(FNN プライムオンライン、024年 2月 8日)

3月に行われるロシア大統領選挙に、反プーチンを掲げている候補の出馬が認められなかった。

ロシアの中央選挙管理委員会は8日、大統領選の候補予定者で唯一、ウクライナへの侵攻反対を掲げていた元下院議員のボリス・ナデジディン氏の出馬を認めないと決定した。

ナデジディン氏の陣営は、立候補の登録に必要とされる有権者10万人以上の署名を提出したが、選管は一部の署名に不備があり、無効としたという。

ナデジディン氏は「予想通りの決定」とした上で、最高裁判所に不服申し立てる意向を示した。

当局が「反戦」への取り締まりを厳しくする中、ロシア各地で署名の長い列ができるなど、軍事侵攻を批判するナデジディン氏を支持する動きが広がりを見せていた。

プーチン政権が反戦機運の高まりを避けるため、ナデジディン氏の出馬を認めないよう選管に圧力をかけた可能性もある。

3月17日に行われる大統領選には現職のプーチン氏を含む4人が出馬するが、プーチン氏の再選が確実視されている。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/361cbfd82d3ec19dc06e7054674c9c62cc45fdd4>

※安齋注:次のようなニュースもある。

ロシア中央選挙管理委員会は8日、3月のロシア大統領選にウクライナ侵攻に反対の立場で立候補を目指したナデジディン元下院議員が必要数の有効署名を集めていないとして、候補者登録を拒否し

た。

選挙は通算5選を目指し無所属で立候補した現職プーチン大統領の勝利が確実視される。ナデジディン氏が失格になれば選挙戦で反戦を訴える候補はいなくなる。ナデジディン氏側は最高裁判所に提訴するとしている。

立候補には中央選管が10万人の署名を有効と認める必要があった。ナデジディン氏の陣営は10万5千人分の署名を提出。選管は6万人分のサンプル審査で9千人分余りに不備があったとし、失格を勧告していた。

<https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/1312923>

※安齋注:次のような情報も。

「ウクライナ侵攻反対」を掲げ、3月のロシア大統領選挙への出馬を目指す元下院議員が提出した署名をめぐり、ロシアの中央選挙管理委員会は死者の名前が含まれていると主張しました。出馬が認められない可能性もあります。

ロシアメディアによりますと、中央選挙管理委員会は2日、元下院議員のナジェージュジン氏が提出した署名に、すでに死亡した数十人の名前が含まれているとし、「ナジェージュジン氏も一部関与している疑いがある」と主張しました。

中央選管は5日にナジェージュジン氏から事情を聞いたうえで候補者として登録するかどうか決定し、7日に発表するとしています。

ナジェージュジン氏は2日、自身のSNSに署名に訪れた人たちの画像とともに「彼らが生きているのは明らかだ」と投稿。選管側の主張に反論しています。

「ウクライナ侵攻反対」を掲げるナジェージュジン氏をめぐっては、反戦ムードの広がりを警戒する政権側の意向を受け、候補者登録が認められない可能性も指摘されていますが、JNNの単独インタビューに対しナジェージュジン氏は「認められなければ裁判に訴える」と語っています。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/25309b34429a50b9a3b832c21fd534748e643dc5>

## ⑦「アップデートが必要」ゼレンスキー大統領がウクライナ軍トップの交代を発表 戦闘膠着と士気低下を懸念(FNNプライムオンライン、一部既報、2024年2月9日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は8日、軍の総司令官交代を発表し、ザルジニー総司令官の解任を明らかにした。

ゼレンスキー大統領は8日、ロシアによる軍事侵攻から2月で2年を迎えるなか刷新が必要だと強調し、ウクライナ軍のトップ、ザルジニー総司令官の解任を明らかにした。

た、後任に陸軍トップのオレクサンドル・シルスキー氏を任命すると発表し、ザルジニー氏には引き続きチームにとどまるよう提案したという。

ザルジニー氏は2022年2月の侵攻当初から指揮を執っていて、前線の兵士や国民の人气が高く、交代による戦況への影響は避けられないとみられる。

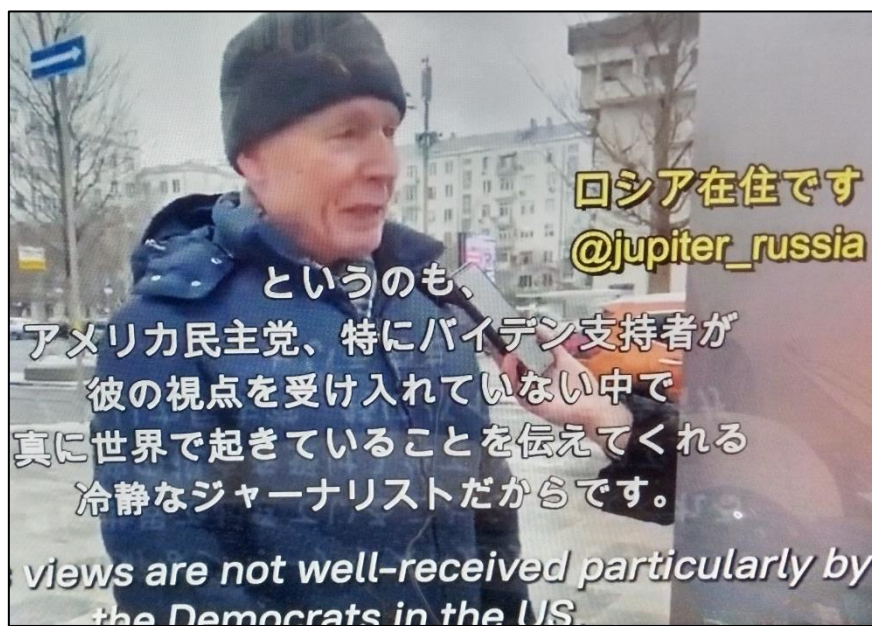
ゼレンスキー氏とザルジニー氏は、戦況の認識などをめぐって確執があると指摘されていた。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/09e39548961435235ff21e894cb2ea48d2db25be>



## ⑧タッカー・カルソン訪莫についてのロシア人への街頭インタビュー(2024年2月7日)

<https://twitter.com/i/status/1755284943989535193>

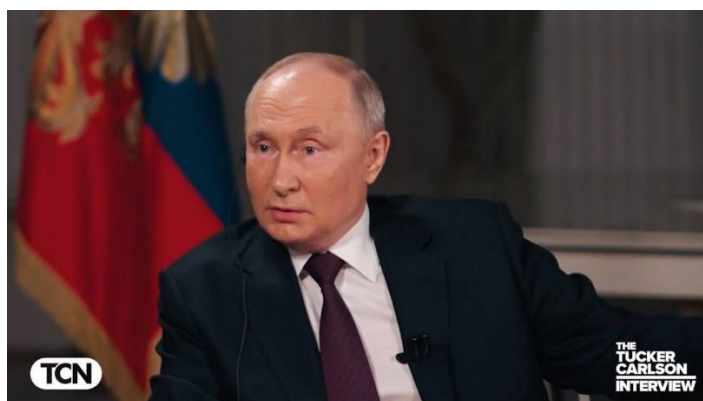


[https://twitter.com/jupiter\\_russia/status/1755284943989535193](https://twitter.com/jupiter_russia/status/1755284943989535193)

## ⑨【プーチン氏・タッカー・カールソン氏からのインタビュー】ウクライナ紛争の原因について(2024年2月9日)

2014年にCIA(米中央情報局)がウクライナでクーデターを実行したことは、技術的には正しいやり方だったが、政治的観点からすると大きな間違いだったとプーチン氏は述べた。

プーチン氏は「政治指導部はこれが何をもたらすか理解すべきだった」と話した。



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1755741458643222927?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1755741458643222927?s=09)

## ⑩プーチン氏・タッカー・カールソン氏からのインタビュー】「ノルドストリーム」爆破について(2024年2月9日)

プーチン氏は、2022年にガスパイプライン「ノルドストリーム1」および「ノルドストリーム2」を爆破したのは誰かとカールソン(Tucker Carlson)氏に尋ねられ、笑いながら「もちろん、あなたがたで



す」と答えた。

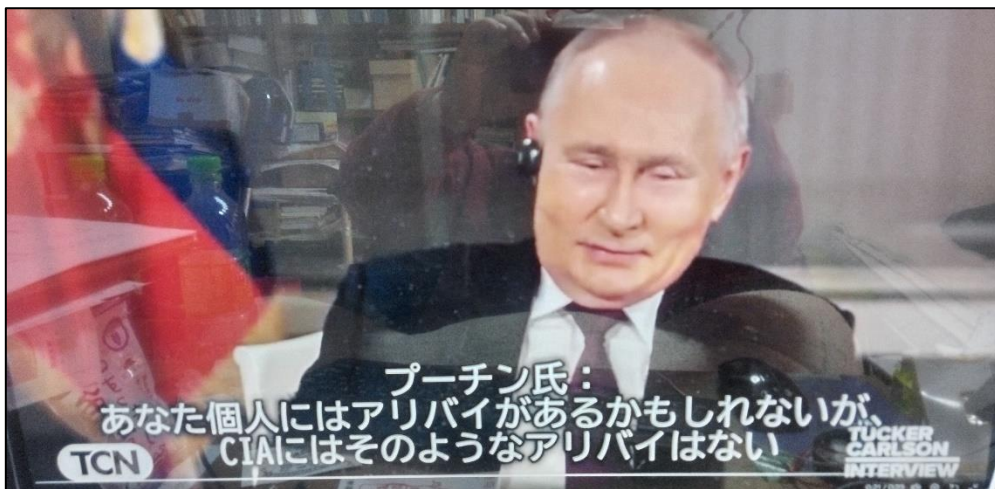
カールソン氏は「その日は忙しかった。私は『ノルドストリーム』を爆破していません」と冗談めかして答えた。

これに対し、プーチン氏は「あなた個人にはアリバイがあるかもしれないが、CIA にはそのようなアリバイはない」と答えた。

プーチン氏は、「ノルドストリーム」爆破事件を調査する際には、爆破に関心を持っているだけでなく、それを実行できる人物を探すべきだと明言した。

なぜロシアは「ノルドストリーム」爆破に関する情報を公表しないのかとの質問に対し、プーチン氏は、「ロシアが情報源を公表したところで、情報源に危害を与えるだけで、何の結果も得られない」と答えた。

<https://twitter.com/i/status/1755776757964079138>



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1755776757964079138](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1755776757964079138)

※安齋注: 次の記事もあります。

us 🇺🇸 タッカー 🗣️ 誰がノルドストリームを爆破したのでしょうか？

RU 🇷🇺 プーチン 🗣️ 間違いなく君だ w

us タッカー 🗣️ あの日は忙しかった 🗣️ 私はノルドストリームを爆破していない… 😊

RU 🇷🇺 プーチン 🗣️ 君個人にはアリバイがあるかもしれないが CIA にはそんなアリバイはない。 😊

us 🇺🇸 タッカー 🗣️ NATO や CIA がやったという証拠をお持ちですか？

RU 🇷🇺 プ～さん 🗣️ 詳細は省くが、このような場合、関心を持つ人物を探すべきだと言われる。しかしこの場合、関心を持つ人物を探すだけでなく能力のある人物を探すべきです。関心を持つ人物はたくさんいるかもしれませんが、その全員がバルト海の底に沈んでこの爆発を実行できるわけではないからです。誰が興味を持ち、誰が実行できるのか、この 2 つの要素は繋がっている

us 🇺🇸 タッカー 🗣️ しかし私は混乱している。史上最大の産業テロ行為だ、そして史上最大の CO2 排出。では、もしあなたが証拠を持っていて、おそらくセキュリティサービスをレンタルしているのであれば、NATO やアメリカ CIA、西側諸国がこれを行ったことになる。

なぜあなたはそれを提示しプロパガンダの勝利を得ようとししないのか？

RU 🇷🇺 プ～さん 🗣️ プロパガンダの世界では、アメリカを打ち負かすのは非常に難しい。

なぜなら、アメリカは世界中のメディアや多くのヨーロッパのメディアを支配しているからだ。

ヨーロッパ最大のメディアの最終的な受益者はアメリカの金融機関だ。知っているだろう。

だから、この仕事に携わることは可能だが情報源にスポットライトを当てるだけでは成果が得られない、いわばコスト高なのだ。

何が起こったかは全世界に明らかで、アメリカのアナリストでさえ直接話している。それは事実だ。

### ①トランプ大統領が、昨日のタッカー・カールソンさんとのお話の中でノルド・ストリームパイプラインを破壊したのはアメリカだとやんわり言いました(去年の話、2023年4月13日)

※投稿者コメント:トランプ大統領が、ノルド・ストリームパイプラインを破壊したのはアメリカだと言いました。爆弾💣発言にびっくり!!したのでシェアしますね。

<https://twitter.com/i/status/1646416852346888193>

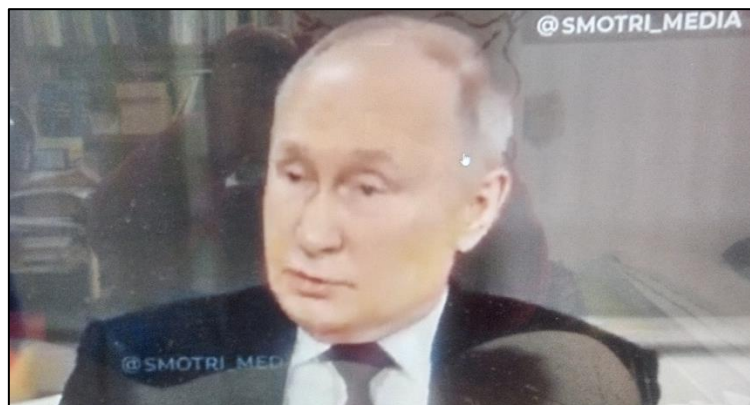


<https://twitter.com/w2skwn3/status/1646416852346888193>

### ②カールソン:紛争解決の和平交渉がこれまで行われてこなかったのはなぜか?(2024年2月9日)

和平交渉は行われ合意する高い段階にまで達したが、申し上げたように、我々がキエフから軍を撤退させた途端、ウの交渉担当者達はイスタンブールでの合意をすべて投げ捨て、米国とその衛星の助けを借り武力衝突の準備をした。

<https://twitter.com/i/status/1755760625371029983>



<https://twitter.com/tobimono2/status/1755760625371029983?s=09>

### ③政治指導者達が米ドルを政治闘争の道具として使うと決めたとたん、アメリカに打撃が与えられた(2024年2月9日)

今、私は強い言葉を使いたくはないがこれは愚かなことだ。そして重大な過ちである。

世界で何が起きているのか？アメリカの同盟国でさえドル準備を縮小している。それを見て、誰もが自分の身を守る方法を探し始める。

そして米国が特定の国に対して取引制限や資産凍結などの制限的な措置を取ることは、大きな懸念を引き起こし全世界にシグナルを送ることになる。2022 年までロシアの対外貿易取引の約 80% が米ドルとユーロで行われていた。

米ドルは第三国との取引の約 50% を占めていた。しかし現在は 13% にまで減少している。

米ドルでの取引を制限したのはアメリカの決定だ。米国自身とその納税者の利益の観点からすれば、完全に愚かな行為だと思う。アメリカ経済にダメージを与え、世界におけるアメリカの力を弱めることになる。

何をしているんだ？自分で自分の首を切ってる。

<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1755755504817848595?s=09>

## ●タッカー・カールソン vs.ウラジーミル・プーチンのインタビューをまとめてみたい人は、こちらをどうぞ【2024年2月8日】

<https://tuckercarlson.com/the-vladimir-putin-interview/?s=09>

TIMESTAMP HEADLINE

00:00:00 Introduction

00:02:00 Putin gives a history of Russia & Ukraine

00:25:04 NATO Expansion

00:30:40 NATO & Bill Clinton

00:41:10 Ukraine

00:48:30 What triggered this conflict?

01:02:37 A peaceful solution?

01:11:33 Who blew up the Nord Stream pipelines?

01:24:13 Re-establishing communication with the US

01:36:33 How powerful is Zelensky?

01:48:36 Elon Musk & AI

01:51:07 Imprisoned American journalist Evan Gershkovich

## ●欧米の武器支援中止なら「数週間で戦争は終わる」プーチン大統領 ウクライナ侵攻後初 米メディアのインタビューに応じる(FNN プライムオンライン、2024年 2 月 9 日)

ロシアのプーチン大統領が、ウクライナ侵攻後、初めてとなる、アメリカメディアのインタビューに応じ、欧米諸国によるウクライナへの武器支援を中止すれば「数週間で戦争は終わる」などと、自説を訴えました。

プーチン大統領にインタビューしたのはアメリカ FOX ニュースの元看板キャスターでトランプ前大統領に近いとされるタッカー・カールソン氏(タッカー・カールソン・ネットワーク)です。

プーチン氏はインタビューでウクライナ侵攻について問われ、「アメリカの指導者が私たちが越えてはならない一線まで追い詰めた」と批判した上で、正当性を何度も強調しました。



また、軍事侵攻については「まだ目的は達成していない」と述べる一方で、「本当に戦いを止めたいのなら武器の供与を止める必要がある。数週間で戦争は終わり、何らかの合意が得られるだろう」と自説を展開しました。

さらに欧米諸国からロシアがウクライナの隣国にも軍事侵攻する懸念の声が出ていることについては、「ポーランドにもラトビアにも他のどこにも関心がない」と述べて、脅威が誇張されていると否定しました。

インタビューではプーチン氏がアメリカ国内の不法移民や債務問題に触れ、そちらの対応を優先すべき考えを示すなど、11月のアメリカ大統領選挙もにらみ、揺さぶりをかける狙いもあるとみられます。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/dc0d2ab1e1c69a96572c9baa2f58e84602238d62/images/000>